

8-3 開通日はずらせない！施工エリアの引き渡し遅延への対応

1. 立場と仕事

道路会社に入社し、数多くの高速道路工事に従事した。入社してから二十年がたち、主要幹線道路事業における現場代理人として、道路舗装工事を昼夜で施工した。

2. 遭遇した事態

異なる発注者が管理する工事より施工エリアを引き渡されてからしか着手できない工事で、当該区間全体で施工者が数十者も係る複雑な混在作業であった。受注後1年で開通する予定であったが、引き渡す側の工事が遅れたために施工できるエリアがなく、工期残り5か月の段階で出来高数%しかない状態であった。

発注者と開通日を遅らせる方向で協議したが、最終的には当初開通日を厳守することとなった。

3. 対応内容とその結果

開通日まで残り5か月の段階でもっとも引き渡しが遅れている工区に係わることとなり、それまで機能していなかった「混在作業に関する安全衛生総括管理協議会」（事業全体の会議で、両発注者および関連する業者数十者が参加）を工程調整の場として活用し、リーダーとなって運営した。まず、「本線に関係ない工事は開通後に施工することとし、開通日を遵守することを最優先させる」という方針を掲げ、関係者の同意を得た。工事の優先順位を定めて各社開通に向けた取組みをおこなうこととした。

引き渡しを受ける本体構造物の品質について、かなり疑わしいものが多数あった。時間のない状況だったが、発注者がおこなう引き渡し時の確認に同行して、1つ1つダメ出しをして所定の品質を確保させた。

また、急速施工のための施工班の増加に対応するため、職員および作業員の確保をおこなった。社内の関係部署に掛け合って即戦力となる職員を名指しで他職場から引き抜き、協力会社も名指しで選定した。くわえて、現場では新たに配属された人員の性格に応じた指導をおこない、後輩の育成にも配慮した。

これにより、発注者からも無理なのではとの意見があった開通式を無事迎えることができ、感謝の言葉を頂いた。